

今、貴船神社が注目されています。掛塚出身の占い師、ゲッターズ飯田氏が、今最も運氣の高い神社として推奨しているからです。しかし、この地区には、貴船神社だけでなく、由緒のある白羽神社、八雲神社が隣り合っています。今回は、この三社を歩いてめぐることがたいツアーに15人が参加して、実施しました。

津倉邸を出発して、本町・十郎島の町並みを眺めながら堤防の中段を北上しました。八雲神社は江戸時代までは牛頭天王社といい、江戸の末期に水神社が分社し、明治初めに再び合祀して八雲神社となったわけです。水神社を分社した長谷川貞綱の子貞則は、雄踏の中村家に養子に行きましたが、貞則の子貞雄は祖父貞綱の養子となり、川袋に戻りました。

八雲神社の鳥居の脇には、遠州報国隊に加わって江戸に行き、海軍主計総監（海軍の事務方のトップ）となった長谷川貞雄の顕徳碑があります。また、拝殿前の狛犬はちよつと変わった洋風の狛犬ですが、これは東京日本橋にある「麒麟の翼」を制作した渡辺長男がデザインしたものです。顕徳碑も狛犬も昭和六年の制作ですが、この頃から天竜川の改修工事が始まって、神社は北西の旧地から現在地に引っ越してきたのです。南隣にある松林寺

遠州国学で繋がる三社を巡る

名倉慎一郎

には、代々の長谷川家の墓が、今も残されています。

本町の東側の小路を通して貴船神社に至りました。江戸時代の神主、関大和は、国学の大家、平田篤胤の門人となり、江戸に下って半年ほど直接教えを受けました。関家には、平田篤胤の書状が残され、大和は師匠の物まねをする面白い人だったと記されています。大和は、掛塚に帰って塾を開き、平田派の国学を広めていきました。長谷川貞雄は平田国学の影響を受けた一人で、没後門人となりました。貴船神社は明治一六年に火災に遭い、二一年に本殿、三〇年に拝殿が再建されます。その後は境内の整備が進められ、日露戦争に勝利すると、戦勝記念公園の造成が行われました。

150号線を渡って東に向かい、左側の空き地が、白羽神社の神官、山下家の菩提寺、清雲寺の跡です。そこから、家康が隠れたという「権現の森」を通して白羽神社に着きました。

白羽神社の神官を代々務めた山下家は、中世に信州から移住したと言われますが、江戸時代国学者として活躍した有玉の豪農、高林方朗の母親は山下氏の出身でした。そのため、有玉から白羽にたびたび通い、貴船神



潜龍寺



八幡神社

ご案内のご要望も承ります。
※なるべく10人くらいのグループで

社の関大和とも親しかったといえます。

国学は、日本の古典を研究して、日本人固有の生き方を探ろうとした学問ですが、国学者として有名な賀茂真淵は浜松の人で、死後、縣居霊社に祀られました。この神社を作ろうと奔走したのが高林方朗と関大和の二人でした。この二人は、賀茂真淵や本居宣長の霊祭（御年忌も頻繁に行って、遠州地方の国学者の結束を高めました。これがのちの遠州報国隊の結成につながり、長谷川貞雄の活躍の場となったのです。

三つの神社の深い繋がりを理解していただき、三社を訪れていただければ、きっと良いことがあると思います。

ちよつといーけ？

関 香苗さん 92歳（新町）



Q 小さい頃の思い出を教えてください

私はね、お在所が川西（浜松）の五島村西島の農家だもんで、小学校4、5年の頃は学校から帰ると畑仕事を手伝ってたね。「勉強せよ」って言われたことないもんで勉強なんかするもんじゃないと思ってた。（笑）

子供の頃はプールなんか知らなくて、海は危ないもんで五島の砂浜にできた雨水の水溜まりで泳いだだよ。あの頃はそこらの畑行ってスイカ採って食べたって「ごらー！」って言われて逃げりゃよかった。あの頃食べたスイカは美味しかったね。（笑）

掛塚へは東京へ行くくらいの気持ちで木の橋を歩いて渡ってきただよ。小学生の時に帝国館で見た芝居の台詞「南蛮渡来の爆裂弾、お手を離せば破裂する」は、ちよつと怖くて今でも覚えているよ。

Q 香苗さんは二十二歳の時（昭和三十一年）に新町の左官屋に嫁いでくれました

私が掛塚に来たのは新しい掛塚橋ができた次の年。料金所がある橋でその時初めて渡って、いい橋だと思ったね。掛塚の町は本当に都会へ来たみたいにお店だらけでね、こころは木工や左官や建具屋が結構あったね。勤め人もいたけど職人が多いとこだなと思ったよ。

名古屋のおばさんに勧められて当時まだ出たばかりの洗濯機を（嫁入道具に）持ってきたの。水道がない頃は井戸からバケツで水を汲んで洗濯機を回して、脱水は横についてたローラーのハンドルを回して絞っただ

に。洗濯を干すって言うても空いてるところもなく、みんな道路へ干してただよ。（笑）家の台所には掘抜き

の井戸があつて水がダーダー出たもんでね、外で近所の衆が水を汲んだり、たらいを持ってきてべちゃべちゃ喋りながら洗濯してたね。

それと、昔は各町に婦人会があつてバレーボールが盛

んだつたじゃん。当時は9人制で補欠も欲しいもんで町に若い嫁さんが来りゃみんな出されただよ。竜中でバレー大会もやったし、あの頃は町民大会もあったね。掛塚にも子供がいっぱいいいて、そこらの道でみんな遊んでね、車なんか減多に通らんけど、砂利道だもんで石が飛んできて窓ガラスが割れた事もあっただよ。

Q 代々続く左官屋の嫁としての暮らしは

主人は9人兄弟の長男でね、嫁に来た時は春野町から

弟子が7、8人来てて全部で20人くらい家にいてね。みんな弁当を持っていくから朝は米を二升炊いてただよ。弁当箱にご飯をいっぱい詰めておかずはちよつと。竹輪やイモを煮たりして、あとは梅干しやたくわんを入れてね。そうするともう私が食べるご飯はなかったよ。（笑）弟子達は4、5年修行して一人前になって帰っていくけど、まだ中学卒業したばかりの子は嘘を言っ

て自分の家に帰ろうとした子もいたよ。

【左官職人とは】竹で編んだ格子状の骨組みに、藁（わら）を混ぜた土を何層も塗り重ね、漆喰（しっくい）などで仕上げる職人のこと。かまどや風呂場、井戸作りなども手掛け、お城や蔵から一般の民家まで、建築になくはならない存在でした。

左官は、荒壁塗って、中塗り、上塗りってやってくじゃん。土をこねて藁を混ぜて、それを一輪車に載せたり、上にいる職人へ渡したり、私もそういうのを手伝いに行つたよ。家のおじいさん（義父の関一さん）は旧郵便局（現ヤルダ）の外壁なんかをやったみたい。その時の写

真がヤルダさんにも飾ってあるって。

* 昭和十年に建てられた旧掛塚郵便局舎は、木工平さん（砂町）が建築を、新町の名左官職人の関一さんが外壁を手付けました。木造でありながら石造り建築のように見える外観や、立体的な郵便マークや装飾には優れた左官技術が生かされています。

Q ご趣味や現在の楽しみを教えてください。

むかしシオヤのお婆さんが「人間の一生はボウフラと一緒に。浮いたり沈んだり、均せばみんな同じ」って、私が嫁に来て苦労してると思って励ましてくれただよ。でも今は暇を持て余して「バラ色」、友達とスローも行けるしね。（笑）20年ぐら前に始めた短歌もまだ続けているよ。



掛塚郵便局前にて
寿津喜組の棟梁 鈴木平さん
関人造石製造所 関一さん



砂利道で遊ぶ子供たち
バケツの中には何が？

朝食後は静岡新聞の「大自在」を毎日ノートに書き写すのが日課で、もう10年以上も続けているそう。読書も好きで、以前は郷土研究会でも活動されていたそうです。昭和の移り変わっていく掛塚の様子を思い浮かべながらたくさんのお話を聞くことが出来ました。それにしても92歳にしてあの記憶力、なんと羨ましい。

のりこ&さゆり

みんなと倶楽部
My hometown Kaketsuka



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合

お問い合わせ

ご興味のある方は下記までご連絡ください！

☎ 0538-66-4775 (名倉)

17日(日)

イベント後の懇親会

賛助会員の皆さん、かけラボの皆さんと懇親会を開催しました



祭り囃子の披露 -本町

いじゃまいかけつか・春

5月16日(土)・17日(日)

両日共、夏日の良い天候となりました。

恒例のお囃子保存会の皆さんによるお囃子の演奏。
今回は本町さんの皆さんがお囃子を演奏してくれました。



16日(土)



まち歩きと津倉邸見学

掛塚の歴史を解説しながらまち歩き、津倉邸の見学では、歴史と併せて津倉家住宅の魅力をご案内しました。
暑い中、多くの方にご参加いただきました。



← インスタを見てね!

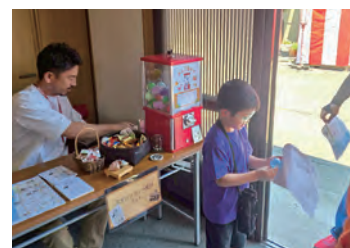
みんなで応援しよっ!



蟹町に手作りの相撲場ができました!
4年生の山崎織くんの母・佳代さんは「息子が本気で相撲と向き合える場所を」と、たくさんの方の力を借りながら土俵を完成させました。この日、こども相撲大会&新土俵のお披露目が開かれました。
開会式では4年生3人が佳代さん手作りの化粧まわしを締め、練習を重ねた力強い四股踏みで会場を盛り上げました。その後の浜松(織くん所属)と袋井の相撲クラブとの団体戦では、立ち合いで体がぶつかる音が響き、その迫力に驚きました。織くんは一週間前に行われた磐田わんぱく相撲大会で優勝し男子最優秀賞にも選ばれ、これからの活躍が楽しみです。

かけラボさんのイベントも同時開催しました

景品が貰えるスタンプラリーとやまのクロッキーやコーヒー等の販売が好評でした!



茶室では来場者と会員がお呈茶を楽しみました。
お菓子とお抹茶のお運びは、メンバーのお孫さんが担当。作法を学びながら、丁寧に務めてくれました。



呈茶



会員・賛助会員・ボランティア会員募集!

「みんなと倶楽部・掛塚」は、湊町掛塚の歴史を刻んだ貴重な文化財を守り、郷土の文化遺産として後世に引き継いでいくことができるよう、旧津倉邸の維持管理に協力しながら、掛塚地区が活気のあるまちになるための活動を展開していこうと考えています。
私たちと一緒に活動していただける方を募集しています。是非、ご参加ください。



正会員

運営・企画に携わっていただきます。年会費 3,000円をお願いします。

賛助会員

会を側面から支えて頂きます。会への行事も自由にご参加ください。
1口 1,000円の年会費となります。

ボランティア会員

会の事業・イベントに、いつでも気軽にご参加ください。会費はありません。
小・中・高校生の方も気軽に参加してください。



振込先はこちら

静岡銀行 竜洋支店
普通預金 0439697
みんなと倶楽部地域づくり
会計 新村京子